
平成28年3月期 決算説明会



平成28年5月24日

目次

【Ⅰ．平成28年3月期 決算概要】

・決算ハイライト	1
・業績概要	3
・資金利益	5
・貸出金	6
・預金・NCD	11
・円貨預貸金利回り	12
・有価証券	13
・役務取引等利益	14
・経費	15
・与信費用	16
・不良債権	17
・金融再生法開示債権 保全状況	18
・自己資本	19

【Ⅱ．平成29年3月期 重点施策・計画】

・個人のお客様向け	20
・法人のお客様向け	22
・コーポレートガバナンス・ 効率化・人財育成	24
・地方創生・地域貢献活動	25
・預金・貸出金・ 有価証券 計画	26
・業績予想・配当予想	27

【別添資料】

・中期経営計画（平成28年4月～平成31年3月） BEST for the Region	
---	--

I . 平成28年3月期 決算概要

連結当期純利益は前期比6億円増加の288億円

<p>利益</p>	<p>利回り低下による貸出金利息の減少や下半期軟調となった日本株市況に起因する株式等損益の減少等がありましたが、外国証券・投資信託での運用強化による有価証券利息の増加や物件費の減少等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前期を上回る結果となりました。</p>
<p>預金・貸出・ 有価証券 残高</p>	<p>預金は、個人預金・法人預金とも堅調に増加しましたが、NCDの取り込みを減少させたことから、前期末比減少。貸出金は事業性貸出を中心に前期末比増加。有価証券は、外国証券・投資信託の残高を積み上げましたが、円債の償還が進んだことから、前期末比減少となりました。</p>
<p>与信費用 不良債権</p>	<p>取引先企業の業績が安定的で貸倒実績が低水準で推移したことから貸倒引当率が低下し、与信費用は前期比減少いたしました。なお、将来の景気後退局面での与信コストの増加に備え破綻懸念先への引当の基準を一部見直し、一定金額以上の債権についてより保守的な引当を実施しております。</p>
<p>自己資本</p>	<p>連結自己資本比率は、期初計画に沿って劣後ローンの償還を進めたことから前期末比低下しましたが、利益による剰余金の積上げにより計画を上回る水準を確保しています。</p>

前中期経営計画“GO for IT!”は全項目達成

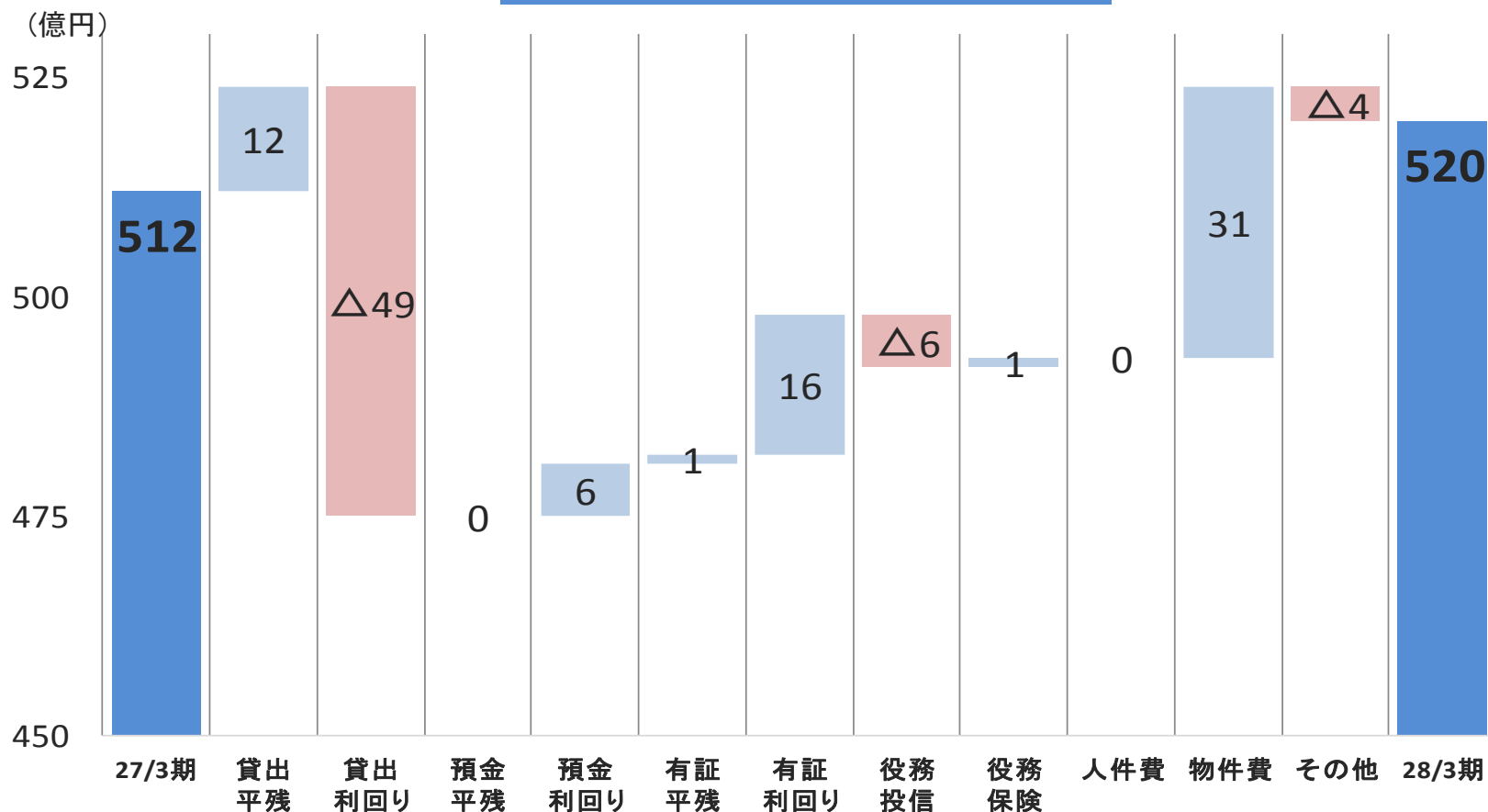
- 前中期経営計画において目標とする計数として掲げていた預貸金平残、コア業務純益、当期純利益、自己資本比率、OHR、不良債権比率の**全項目とも平成28年3月期目標を達成**致しました。

決算ハイライト (コア業務純益増減要因)

- コア業務純益は、利回りの低下により貸出金利息が引続きの減少となったが、有価証券での運用強化や物件費の減少他の要因により、前期比8億円増加の520億円

コア業務純益 増減要因

北陸銀行・北海道銀行 2行合算



業績概要 (連結・2行合算)

(億円)

【ほくほくFG連結】	28/3期		27/3期
	増減額		
経常収益	1,925	△ 13	1,939
経常利益	464	△ 17	481
親会社株主に帰属する当期純利益	288	6	282

【北陸銀行・北海道銀行2行合算】	28/3期		27/3期
	増減額		
コア業務粗利益	1,430	△ 18	1,448
資金利益	1,209	△ 11	1,221
役務取引等利益	200	0	199
特定取引利益	1	△ 0	2
その他業務利益(※)	18	△ 6	24
経費(△)(臨時処理分を除く)	909	△ 26	936
コア業務純益	520	8	512
国債等債券損益	8	△ 26	34
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	529	△ 17	546
一般貸倒引当金繰入(△)	△ 55	△ 35	△ 19
業務純益	584	18	566
臨時損益	△ 117	△ 21	△ 95
うち不良債権処理額(△)	92	12	80
うち株式等損益	△ 5	△ 40	34
経常利益	467	△ 3	471
特別損益	△ 4	7	△ 11
法人税等(△)	163	△ 13	177
当期純利益	299	16	282
(参考)与信費用	37	△ 23	60

※その他業務利益: 国債等債券損益を除く

【ほくほくFG 連結】
経常利益 464億円 (27/3期比△17億円)
親会社株主に帰属する
当期純利益 288億円 (27/3期比+6億円)

【北陸銀行・北海道銀行 2行合算】
コア業務純益 520億円 (27/3期比+8億円)
 …資金利益およびその他業務利益の減少、経費の減少

経常利益 467億円 (27/3期比△3億円)
 …国債等債券損益および株式等損益の減少、
 与信費用の減少

当期純利益 299億円 (27/3期比+16億円)
 …特別利益の増加、法人税等の減少

【連単差の内訳】	(億円)		
	28/3期	増減額	27/3期
差額	△ 11	△ 10	△ 0
子会社利益	17	△ 11	28
のれん償却	△ 21	-	△ 21
パーチェス調整	△ 0	0	△ 0
その他	△ 6	0	△ 6

業績概要 (北陸銀行・北海道銀行)

	【北陸銀行】			【北海道銀行】 (億円)		
	28/3期	増減額	27/3期	28/3期	増減額	27/3期
コア業務粗利益	753	△ 11	765	676	△ 6	683
資金利益	634	△ 5	640	574	△ 6	581
役務取引等利益	106	0	105	93	0	93
特定取引利益	1	△ 0	2	-	-	-
その他業務利益(※)	10	△ 5	16	7	△ 0	8
経費(△) (臨時処理分を除く)	486	△ 18	504	422	△ 8	431
コア業務純益	266	6	260	253	2	251
国債等債券損益	4	△ 31	35	3	4	△ 0
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	271	△ 25	296	257	7	250
一般貸倒引当金繰入(△)	-	4	△ 4	△ 8	5	△ 14
業務純益	271	△ 30	301	266	1	265
臨時損益	△ 3	52	△ 55	△ 66	△ 27	△ 39
うち不良債権処理額(△)	△ 11	△ 33	22	57	△ 0	57
うち株式等損益	△ 0	△ 1	1	△ 5	△ 38	33
経常利益	267	22	245	200	△ 26	226
特別損益	△ 8	2	△ 11	3	4	△ 0
法人税等(△)	94	6	87	69	△ 19	89
当期純利益	165	18	146	134	△ 1	135
(参考)与信費用	△ 11	△ 28	17	48	5	42

※その他業務利益: 国債等債券損益を除く

【北陸銀行】

コア業務純益 266億円 (27/3期比+6億円)

…資金利益、その他業務利益の減少、経費の減少

経常利益 267億円 (27/3期比+22億円)

…国債等債券損益および与信費用の減少

【北海道銀行】

コア業務純益 253億円 (27/3期比+2億円)

…資金利益の減少、経費の減少

経常利益 200億円 (27/3期比△26億円)

…株式等損益の減少、与信費用の増加

資金利益

- 資金利益は、外国証券他での運用強化により有価証券利息が増加したが、貸出金利息の減少により、前期比11億円減少の1,209億円
- 貸出金利息は、平均残高は増加したが利回りの低下が続き、前期比36億円減少。ただし、減少幅は27年3月期よりも5億円改善

資金利益

【2行合算】	(億円)		
	28/3期	増減額	27/3期
資金利益	1,209	△ 11	1,221
貸出金	982	△ 36	1,018
有価証券(※)	269	18	251
預金・NCD(△)	36	△ 6	42

〈利息増減要因〉

【2行合算】	(億円)	
	平残要因	利回要因
貸出金	12	△ 49
有価証券	1	16
預金・NCD(△)	0	△ 6



※うち投信解約分配金: 28億円(前期比△1億円)

平均残高

【2行合算】	(億円)		
	28/3期	増減額	27/3期
貸出金	75,457	937	74,520
有価証券	23,806	164	23,642
預金・NCD	106,389	2,052	104,336

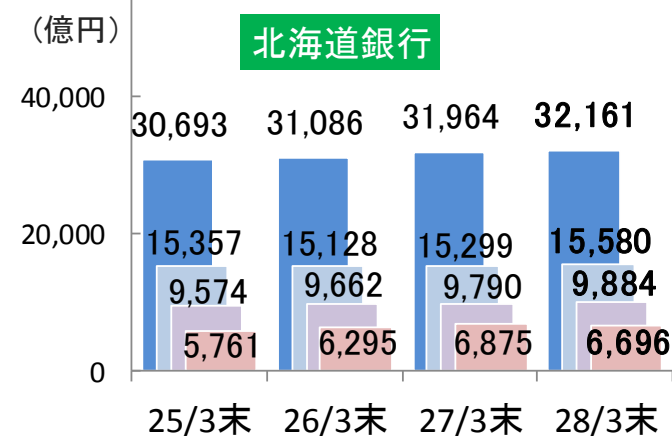
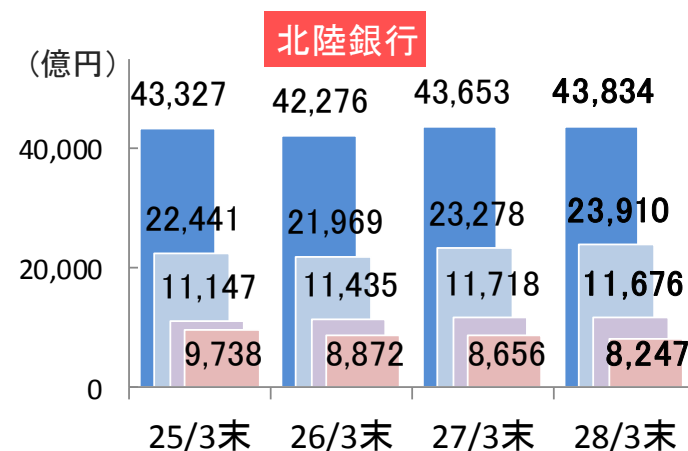
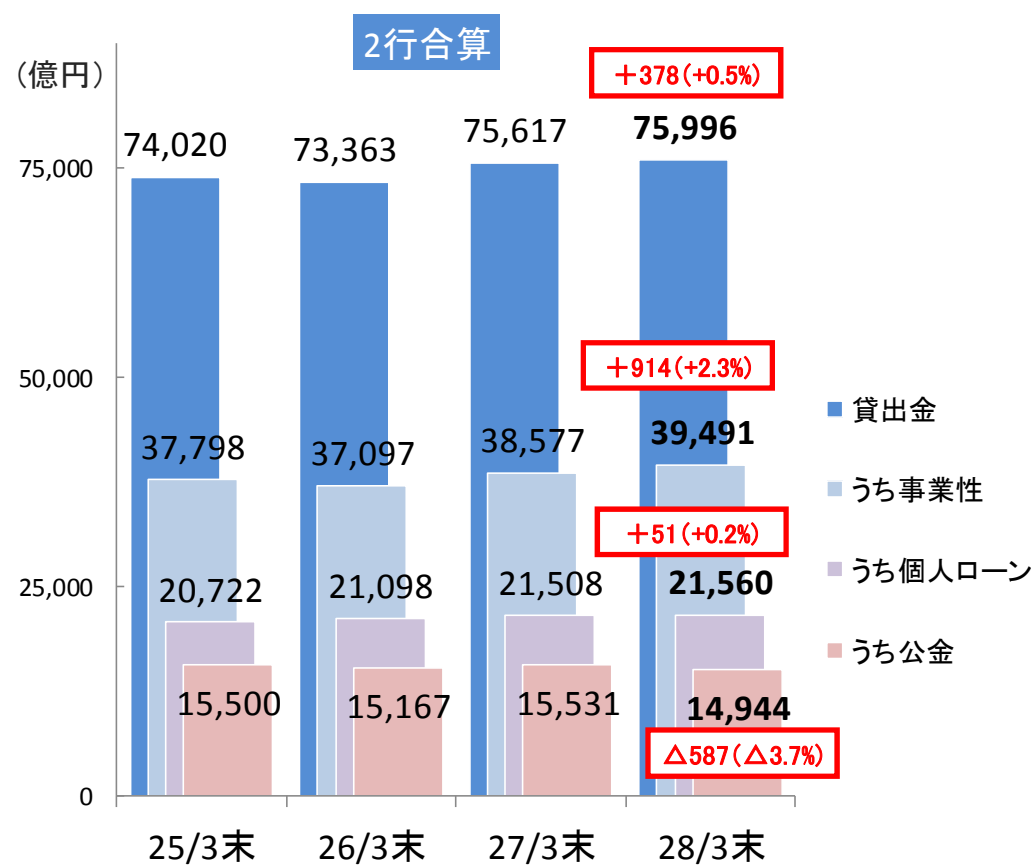
利回り

【2行合算】	28/3期 増減額 27/3期		
	貸出金	1.30%	△0.06%
有価証券	1.13%	0.07%	1.06%
預金・NCD	0.03%	△0.01%	0.04%

貸出金

- 貸出金残高は、金利低下を勘案して国および地公体向け貸出を抑制したため公金貸出が減少した一方で、事業性貸出は順調に増加し、前期末比378億円増加の7兆5,996億円

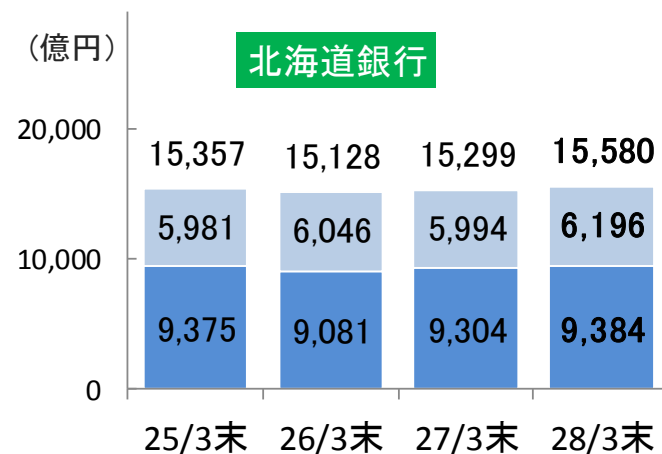
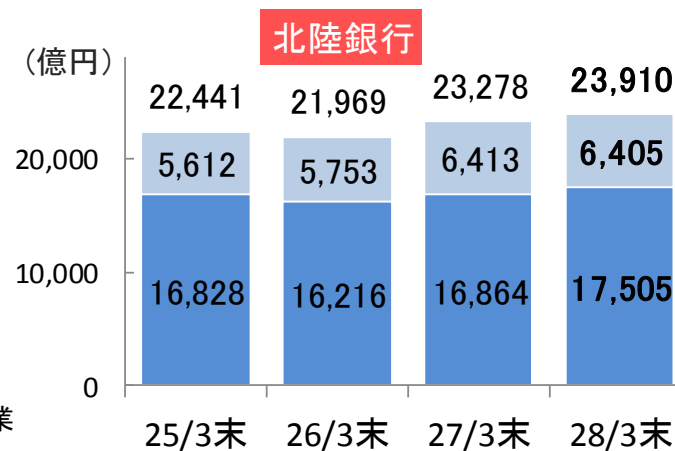
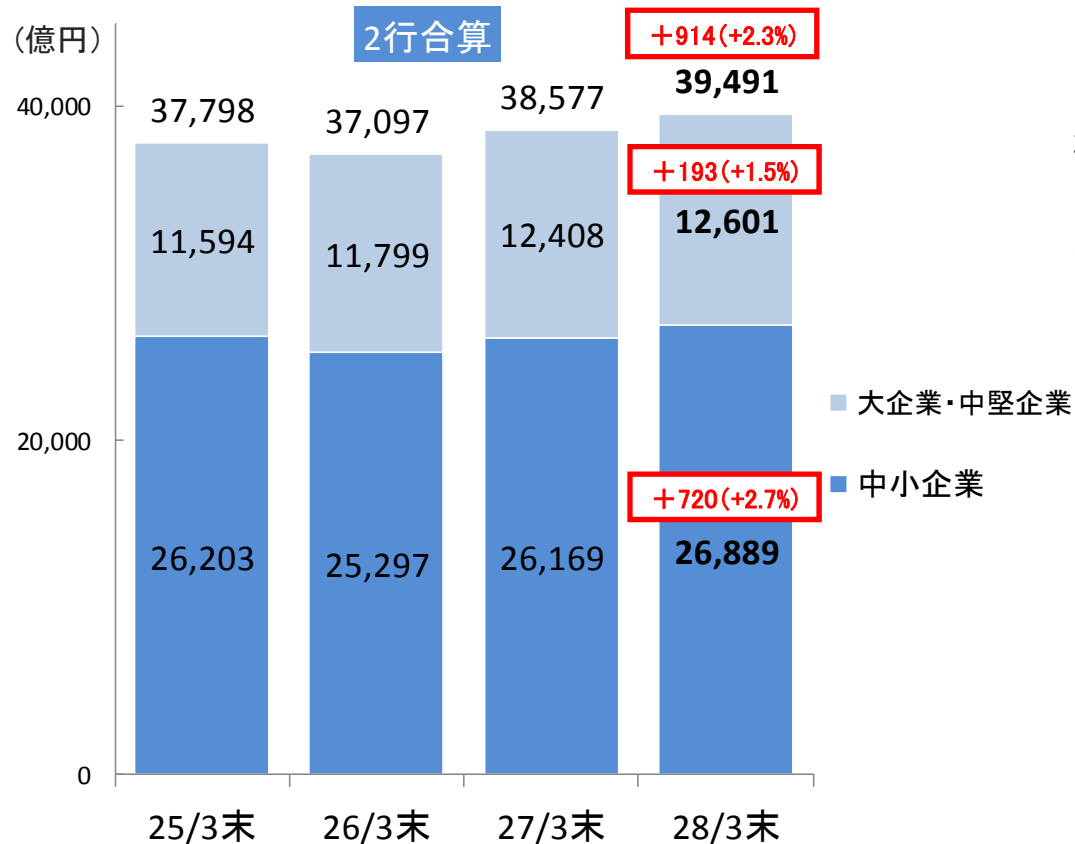
貸出金残高



貸出金（事業性）

- 事業性貸出は、地元中小企業向け貸出を中心に積極的に推進した結果、前期末比914億円増加の3兆9,491億円

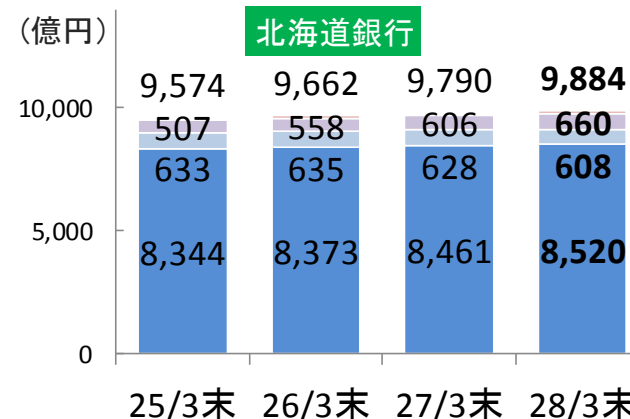
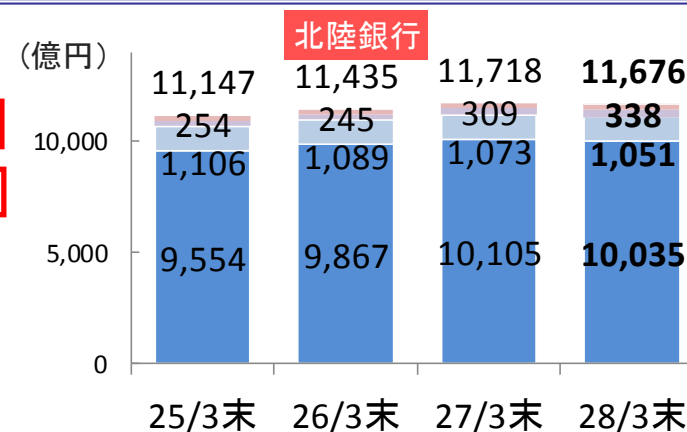
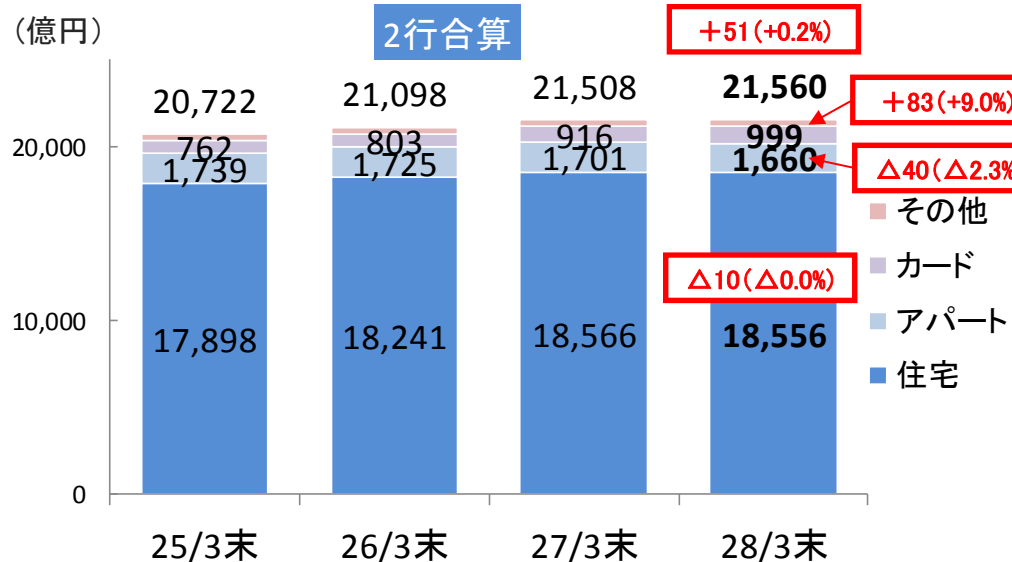
貸出金（事業性）残高



貸出金（個人ローン）

- 住宅ローンは、過度な金利競争とならないよう留意しつつ案件の取り込みを図ってきたが、新規融資額は前期比減少し、残高は横ばい推移
- カードローンは、積極的なプロモーションの結果、前期末比83億円増加の999億円、年間増減率+9.0%と貸出利息の増加に大きく寄与

貸出金（個人ローン）残高



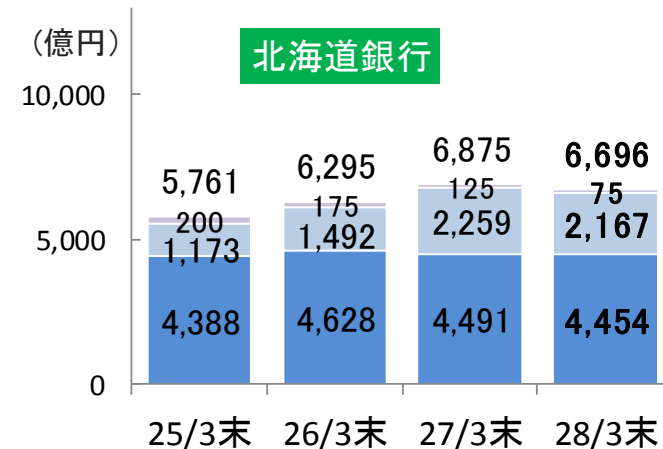
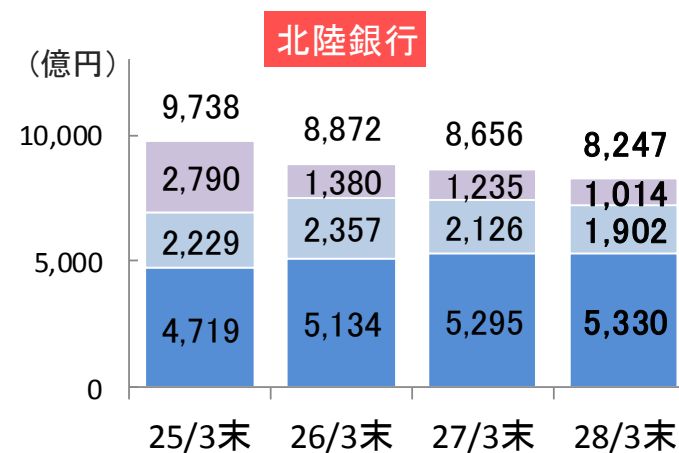
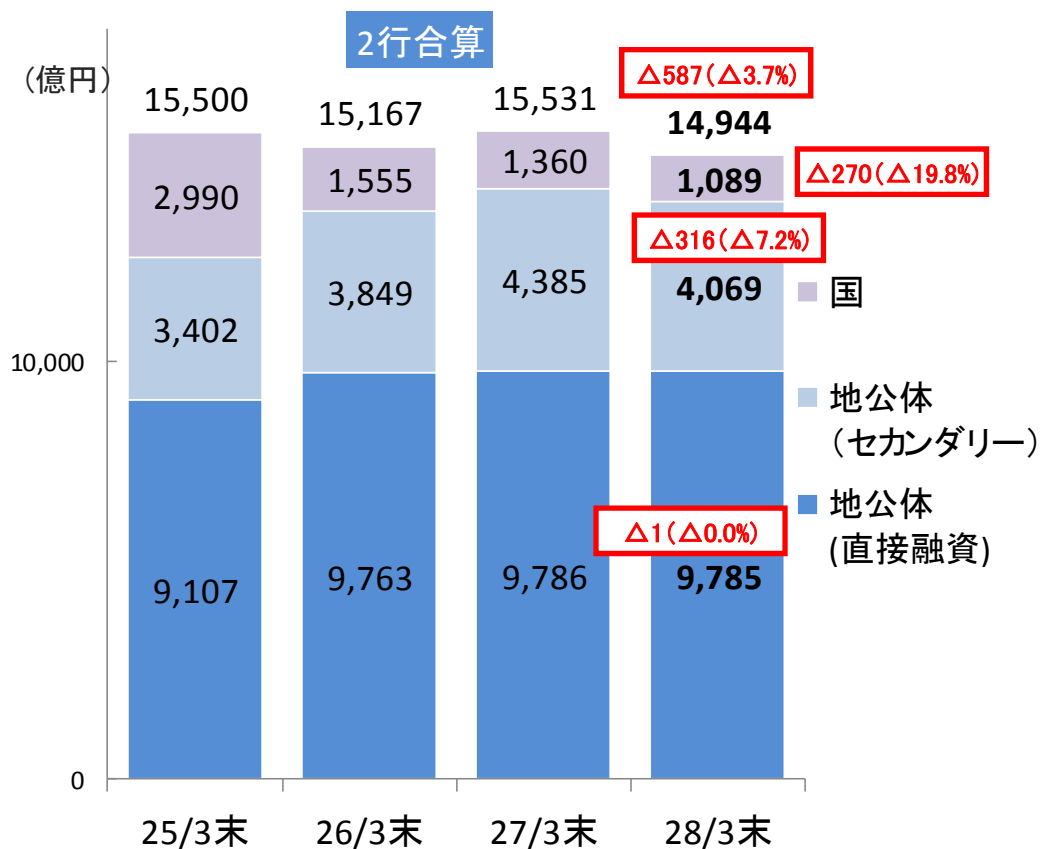
【住宅ローン新規融資額】

	(億円)			
	25/3期	26/3期	27/3期	28/3期
北陸銀行	1,142	1,179	1,065	778
北海道銀行	806	809	800	779
2行合算	1,949	1,988	1,866	1,557

貸出金（公金）

- 公金貸出は、マーケット金利の低下を勘案して、国および地方公共団体等向け貸出（セカンダリー）を抑制した結果、前期末比587億円減少の1兆4,944億円

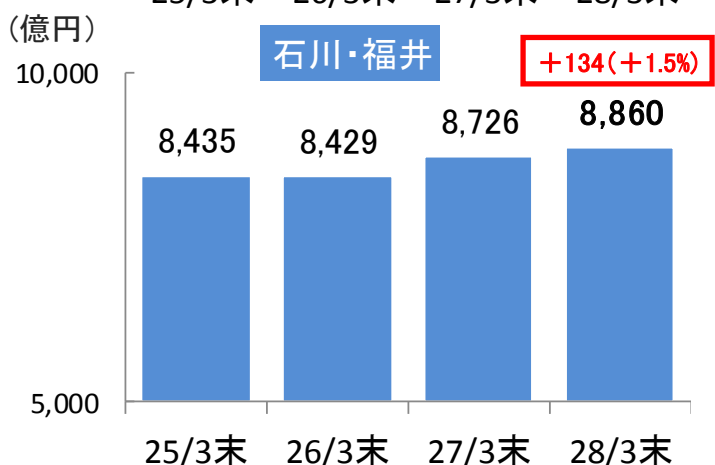
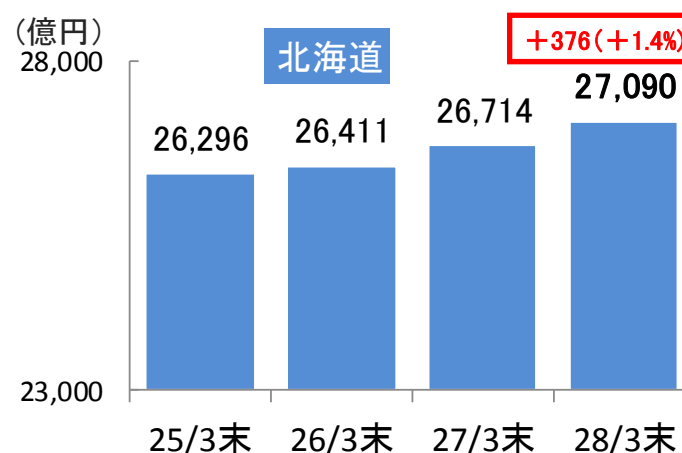
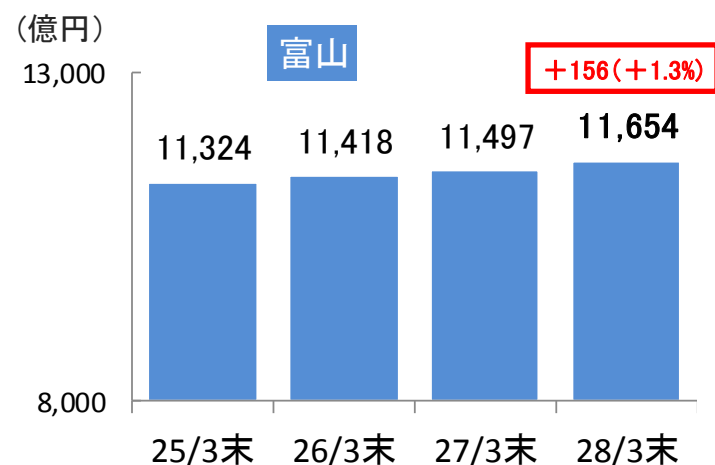
貸出金（公金）残高



貸出金（地域別）

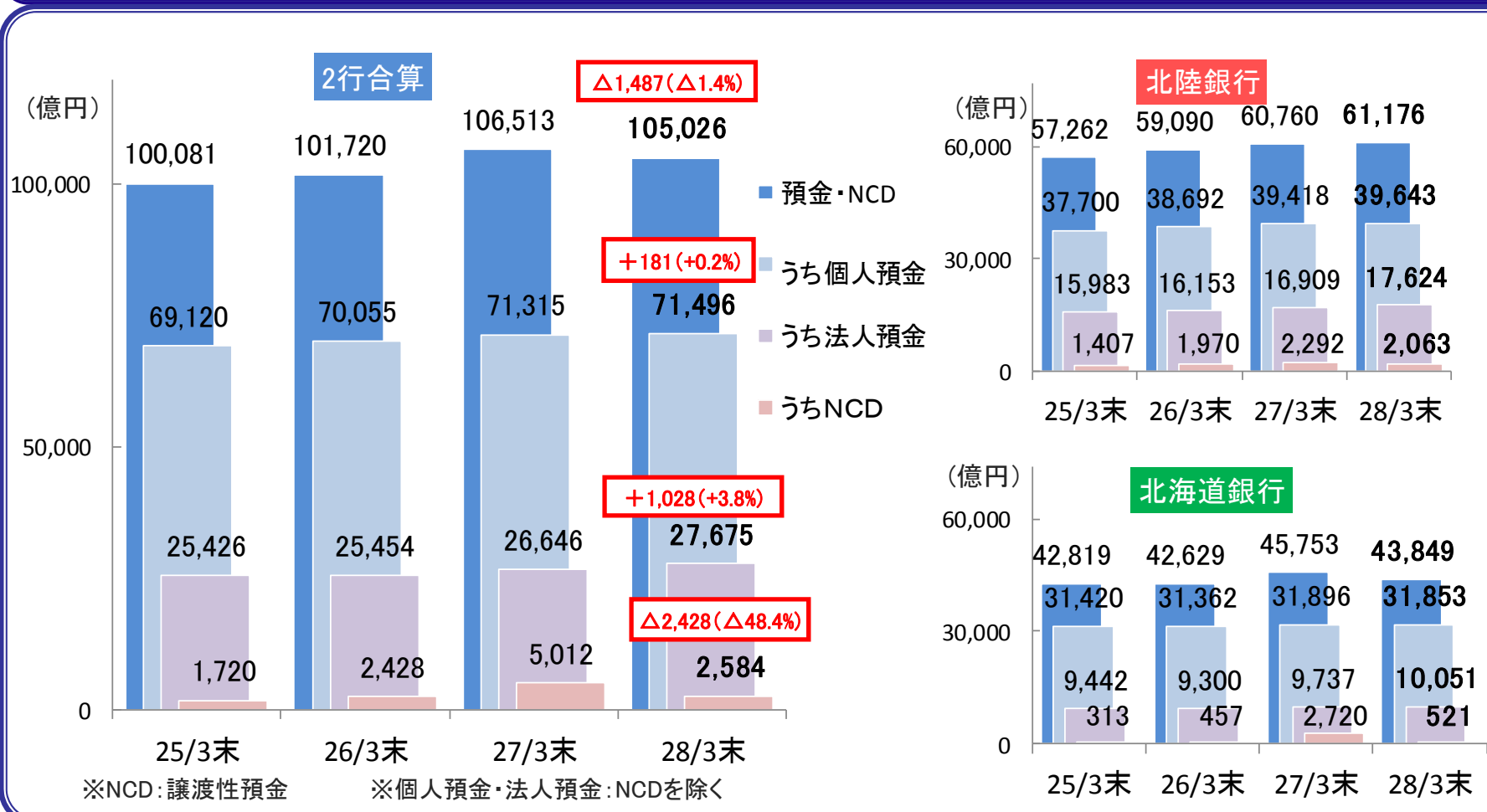
- 当社グループは、地元地域（北陸3県・北海道）の他、東京・大阪・名古屋を中心に20店舗を展開
- 各地域とも、中小企業向け貸出を中心に、堅調に増加

貸出金（地域別）残高（公金貸出を除く）



- 預金残高は、法人預金が堅調に増加した一方で、譲渡性預金での受入を減少させたことから、総体では前期末比1,487億円減少の10兆5,026億円

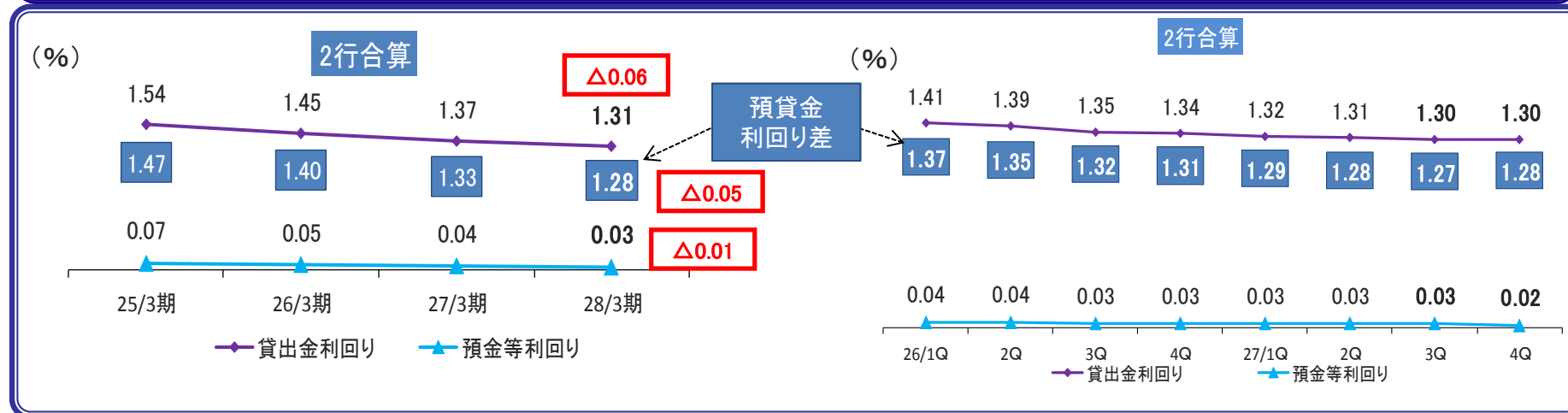
預金・NCD 残高



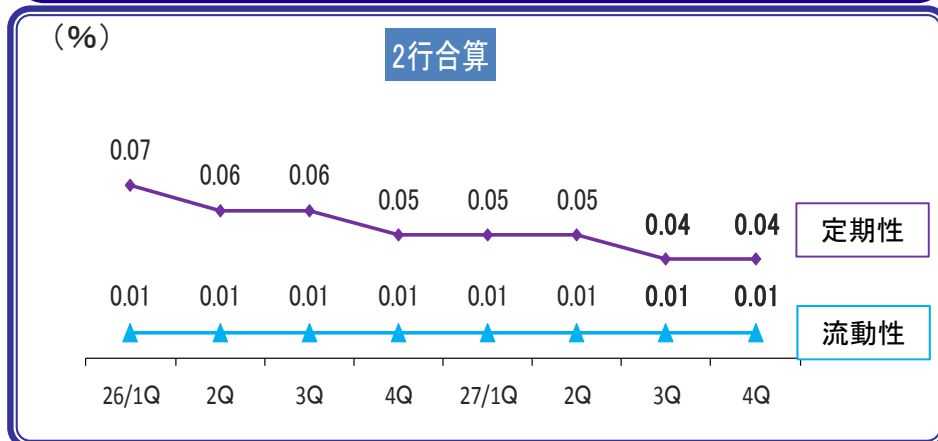
円貨預貸金利回り (内部管理ベース)

- 貸出金利回りは、前期比低下傾向が続くものの、足もとでは下げ止まり。ただし、マイナス金利政策に伴うマーケット金利低下の影響により、今後、更に低下する見通し。

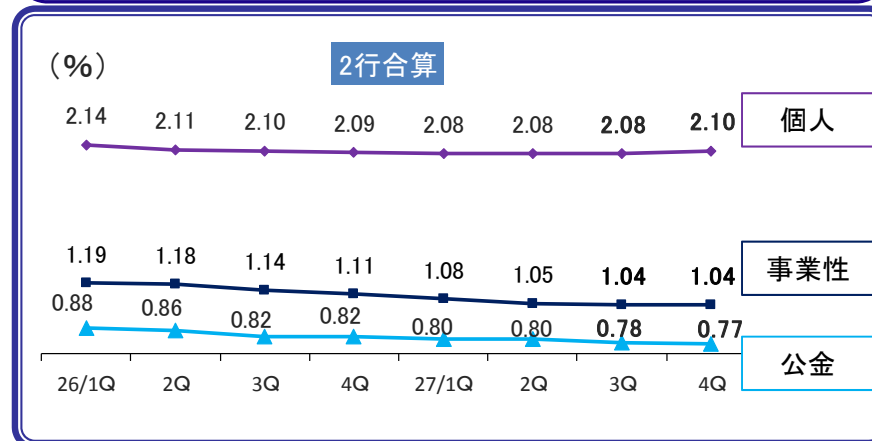
円貨預貸金利回り差



円貨預金利回り

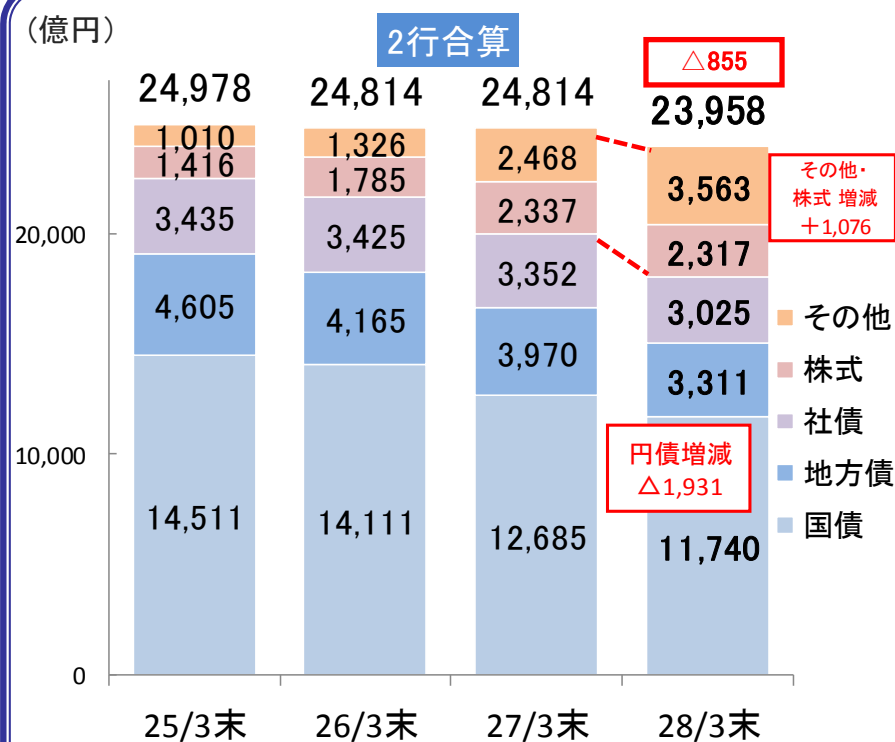


円貨貸出金利回り



- 有価証券残高は、運用の多様化により外国証券や投資信託を積み上げたが、市場金利低下の中で新規の円債購入を抑制し、償還も進んだ結果、前期末比855億円減少の2兆3,958億円
- その他有価証券の評価損益は、株式市場の低迷により前期末比258億円減少

有価証券残高



円債デュレーション (2行合算)

25/3末	26/3末	27/3末	28/3末
3.88年	3.45年	3.05年	2.92年

※ヘッジ考慮後

その他有価証券の評価損益

(億円)

【2行合算】

	28/3末	増減額	27/3末
その他有価証券	1,166	△ 258	1,425
株式	735	△ 216	952
債券	398	23	375
その他	32	△ 65	97

円債残高・利回り・金利リスク

(億円)

【2行合算】

	28/3期	増減額	27/3期
円貨債券残高	18,077	△ 1,931	20,008
うち変動利付国債	3,768	△ 131	3,900
期中平均利回り	0.63%	△0.02%	0.65%
VaR	138	△ 48	187

役務取引等利益

- 役務取引等利益は、マーケットの低迷により投資信託の販売が減少したが、ローン保険料・保証料等の役務取引等費用の減少もあり、前期並の200億円

非金利収入

(億円)

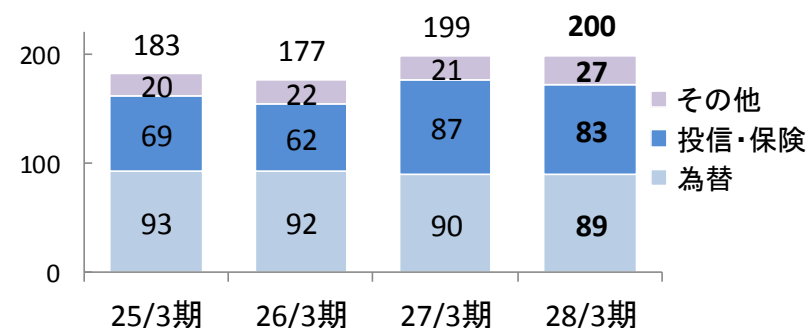
【2行合算】

	28/3期	増減額	27/3期
(1) 役務取引等利益	200	0	199
役務取引等収益	349	△ 3	353
うち受入為替手数料	108	△ 0	108
うち投資信託手数料	44	△ 6	50
うち保険手数料	38	1	36
役務取引等費用(△)	149	△ 3	153
うち支払為替手数料	18	0	18
うちローン保険料・保証料	95	△ 4	99
(2) 特定取引利益	1	△ 0	2
(3) その他業務利益(除く5勘定戻)	18	△ 6	24
うち外為売買損益	10	△ 3	14
うち金融派生商品収益	8	△ 2	10
(4) 非金利収入計 (1)+(2)+(3)	220	△ 6	226
(5) コア業務粗利益	1,430	△ 18	1,448
(6) 非金利収入比率 (4)/(5)	15.40%	△0.24%	15.64%

役務取引等利益

(億円)

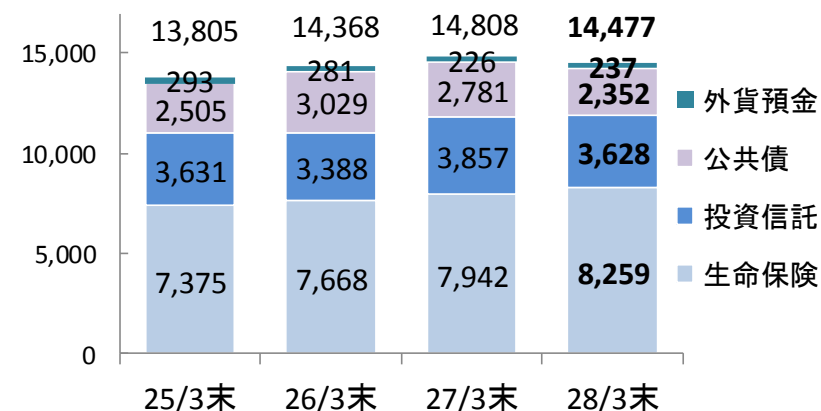
2行合算



預かり資産(個人)の残高

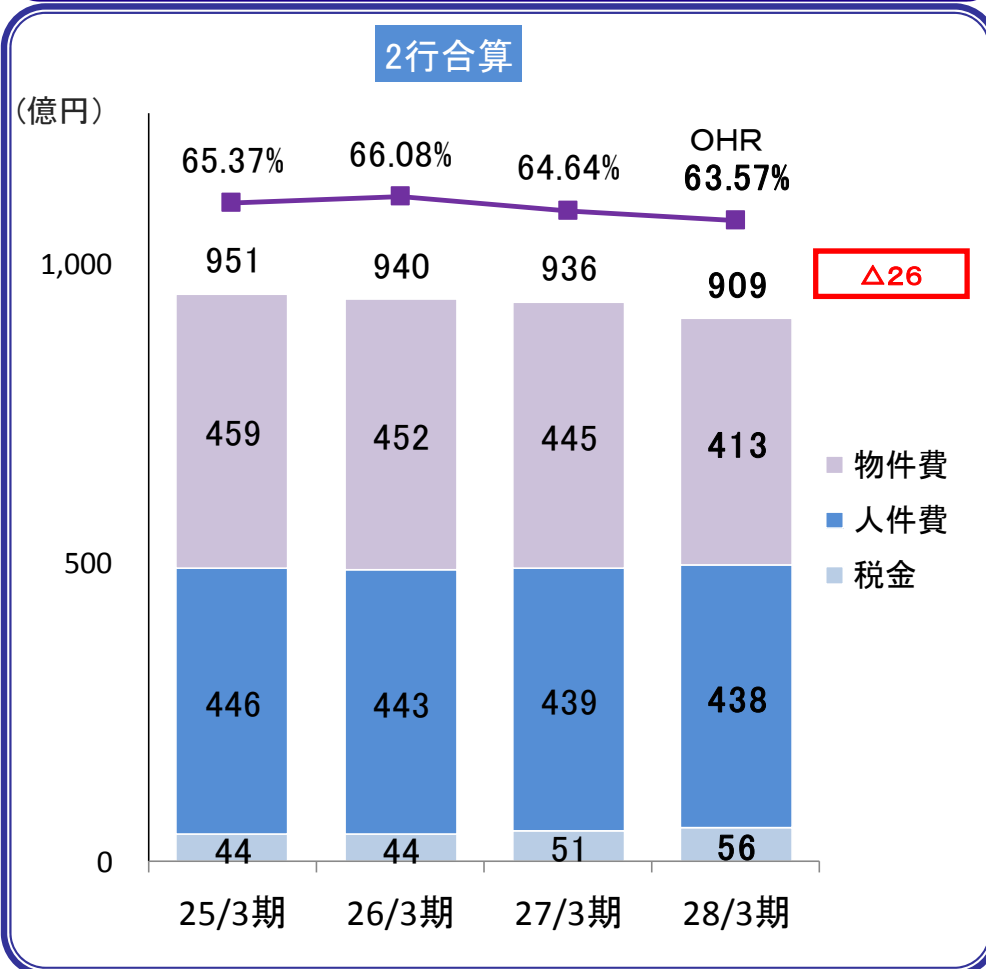
(億円)

2行合算



- 経費は、預金保険料の減少を含めた物件費の減少により、前期比26億円減少の909億円
- OHR（コア業務粗利益ベース）は、経費の減少により1.07ポイント改善し、63.57%

経費・OHR



増減要因

(億円)

【2行合算】	28/3期	増減額	27/3期
人件費	438	△ 0	439
物件費	413	△ 31	445
税金	56	5	51
経費	909	△ 26	936

従業員数

(人)

【2行合算】	28/3末	増減	27/3末
正社員	5,078	△ 16	5,094
スタッフ	3,049	△ 54	3,103

- ・正社員数:「嘱託、パート、派遣社員」を除く
- ・スタッフ:嘱託・契約・臨時・派遣・直接雇用パート

与信費用

- 破綻懸念先の引当基準を見直したことにより個別貸倒引当金繰入は増加した一方、一般貸倒引当金は戻入となり、総体での与信費用は前期比23億円減少の37億円、与信費用比率は0.04%と低水準で推移

与信費用要因

【2行合算】

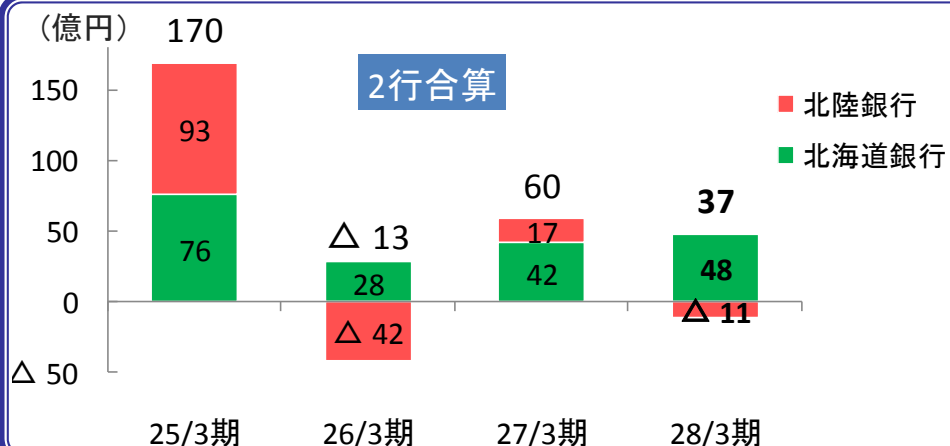
	(億円)		
	28/3期	増減額	27/3期
与信費用	37	△ 23	60
一般貸倒引当金繰入	△ 55	△ 35	△ 19
不良債権処理額	92	12	80
個別貸倒引当金繰入	85	10	74

〈不良債権処理額発生要因〉 (億円)

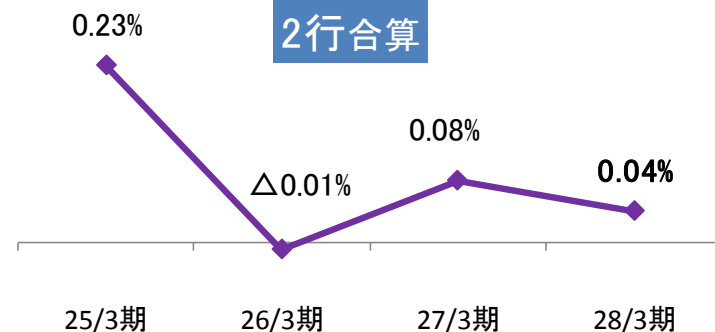
	28/3期	増減額	27/3期
債務者区分悪化	87	△ 55	142
債務者区分改善	△ 13	△ 0	△ 13
地価下落	9	△ 6	15
その他回収等	9	74	△ 64



与信費用



与信費用比率

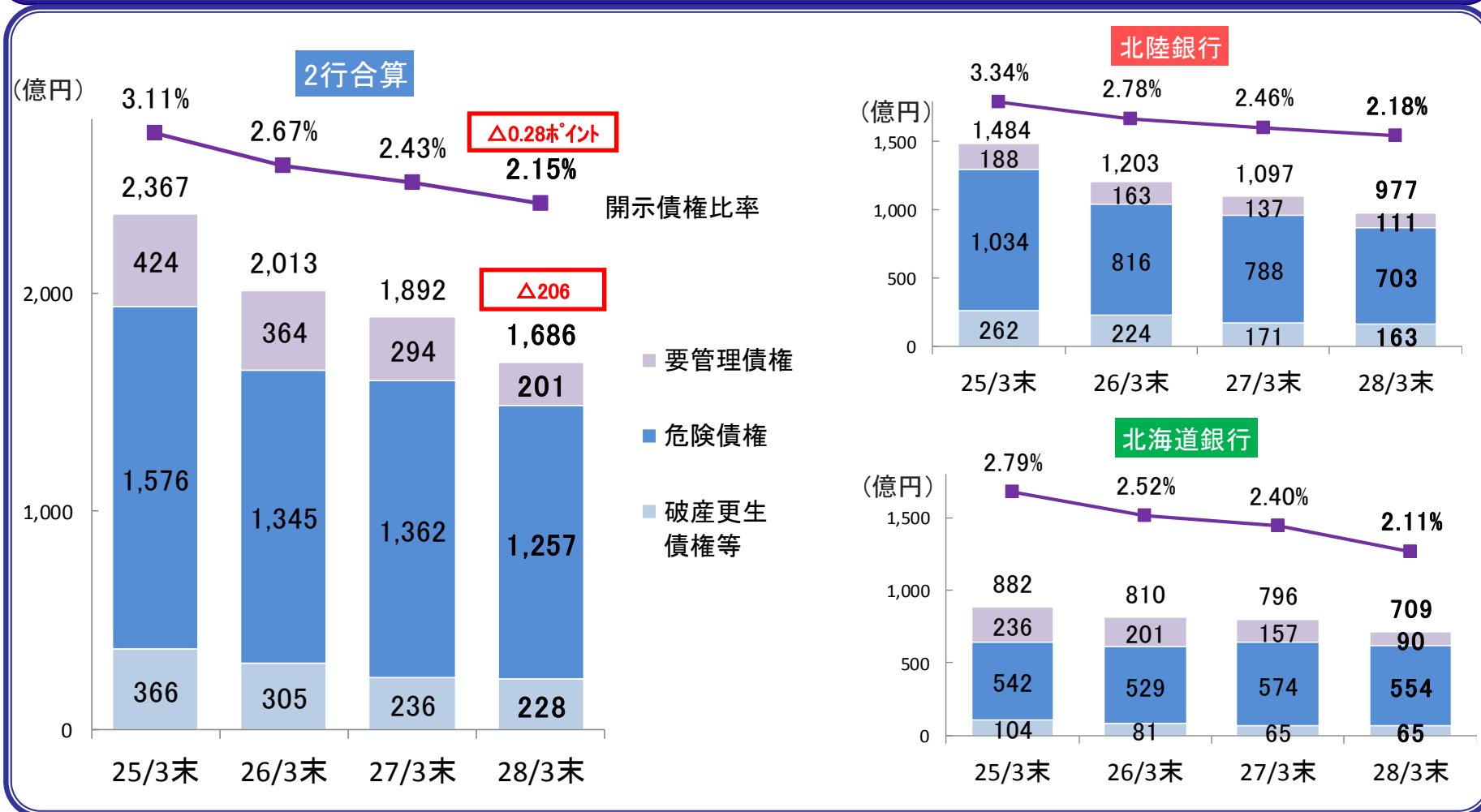


与信費用比率 = 与信費用 ÷ 貸出金平残

不良債権

- 金融再生法開示債権比率は、主に危険債権・要管理債権が減少したことから、前期末比0.28ポイント改善の2.15%

金融再生法開示債権



金融再生法開示債権 保全状況

➤ 破綻懸念先の引当基準を見直したことにより、保全率は6.03ポイント向上し90.13%

保 全 状 況

(億円・%)

【2行合算】		開示債権額	担保・保証等	個別貸倒 引当金等	引当率	保全率
破綻更生債権お よびこれらに準 ずる債権	28/3末	228	198	29	100.00	100.00
	27/3末	236	209	27	100.00	100.00
	増減額	△ 8	△ 10	2	-	-
危険債権	28/3末	1,257	784	344	72.89	89.81
	27/3末	1,362	833	289	54.91	82.52
	増減額	△ 105	△ 49	54	17.98	7.29
要管理債権	28/3末	201	155	7	15.89	80.88
	27/3末	294	214	16	20.82	78.68
	増減額	△ 92	△ 59	△ 9	△ 4.93	2.20
合 計	28/3末	1,686	1,138	380	69.58	90.13
	27/3末	1,892	1,258	333	52.58	84.10
	増減額	△ 206	△ 119	47	17.00	6.03

- 自己資本比率は、利益での剰余金の積上げを進めた一方で、計画に沿って劣後ローンの返済（410億円）を進め、前期末比0.83ポイント低下の10.30%

自己資本・リスクアセット

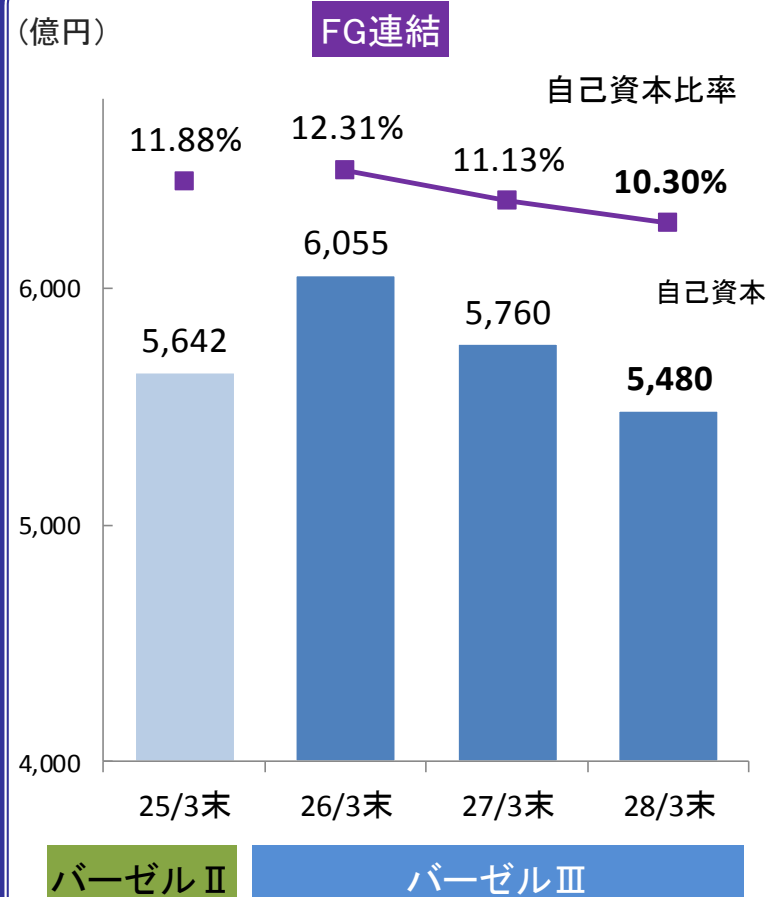
〈バーゼルⅢ国内基準〉

【FG連結】	経過措置適用			完全実施(試算)
	28/3末	増減	27/3末	28/3末
	(億円)			
自己資本	5,480	△ 279	5,760	4,076
基礎項目	5,678	△ 298	5,977	4,300
調整項目(△)	197	△ 18	216	223
リスクアセット	53,183	1,436	51,747	53,054
自己資本比率	10.30%	△ 0.83%	11.13%	7.68%

銀行勘定の金利リスク

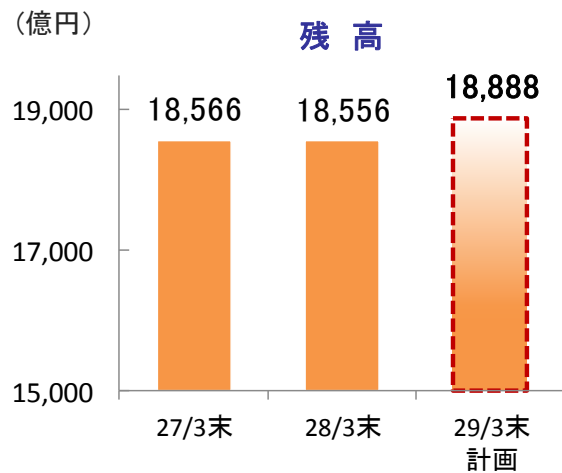
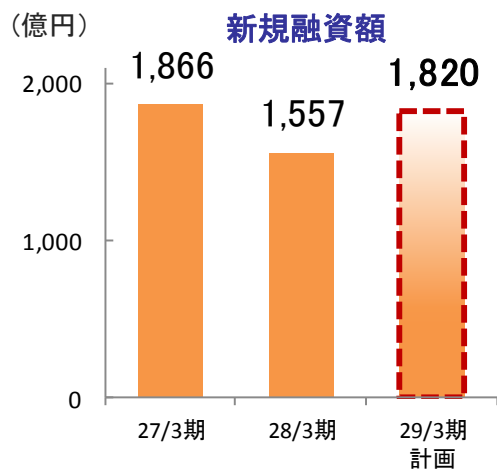
【2行合算】	28/3末		27/3末
	28/3末	増減	27/3末
(億円)			
金利リスク量 (99パーセンタイル値)	130	28	102

自己資本比率



Ⅱ. 平成29年3月期 重点施策・計画

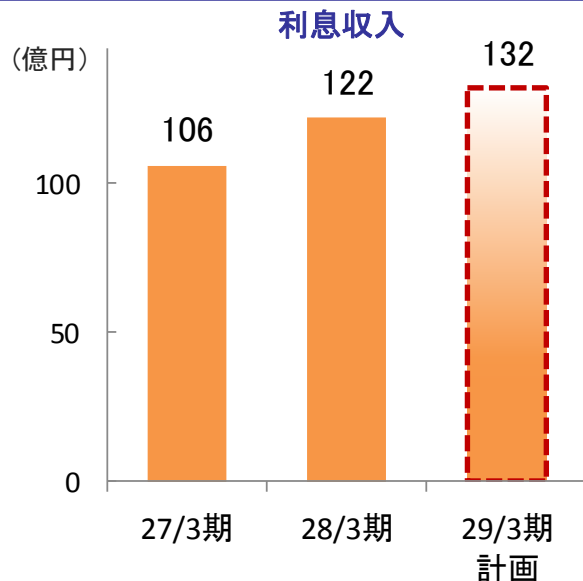
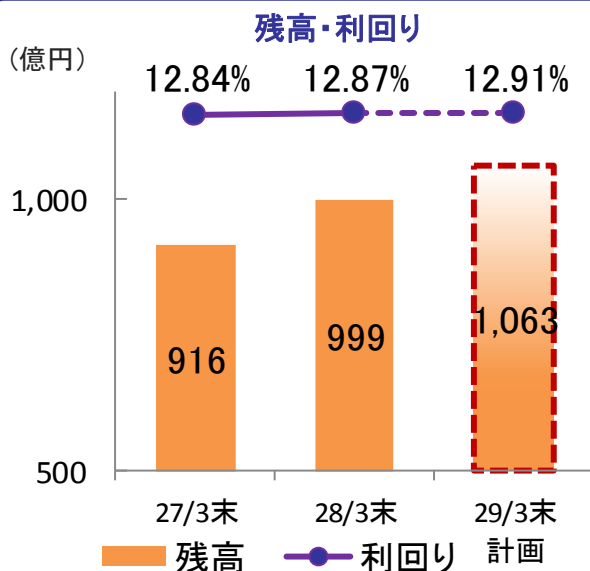
住宅ローン <新規融資額・残高>



- インターネット受付の充実
(事前審査、団信、繰上返済・金利変更)
- 住宅ローンプラザの休日営業店舗拡大
- 申込書・契約書改定による利便性の向上



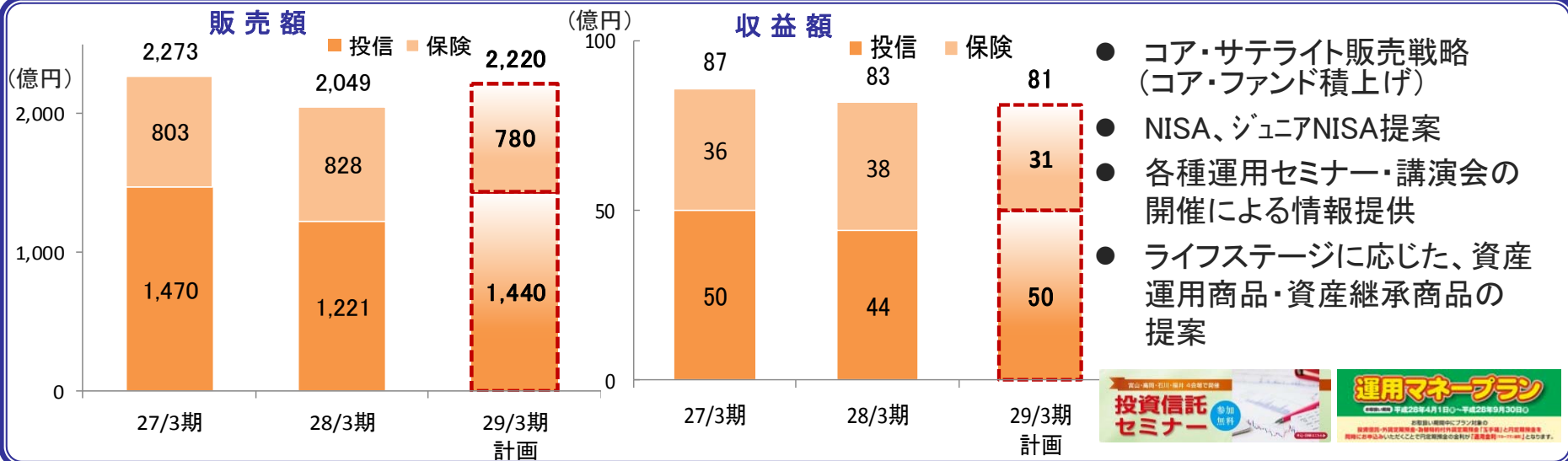
カードローン <残高・利回り・利息収入>



- 既往のお客様への極度増額アプローチ
- テレビコマーシャル・新聞・インターネット(スマートフォン)、雑誌等への広告強化
- ATMカードローン拡大



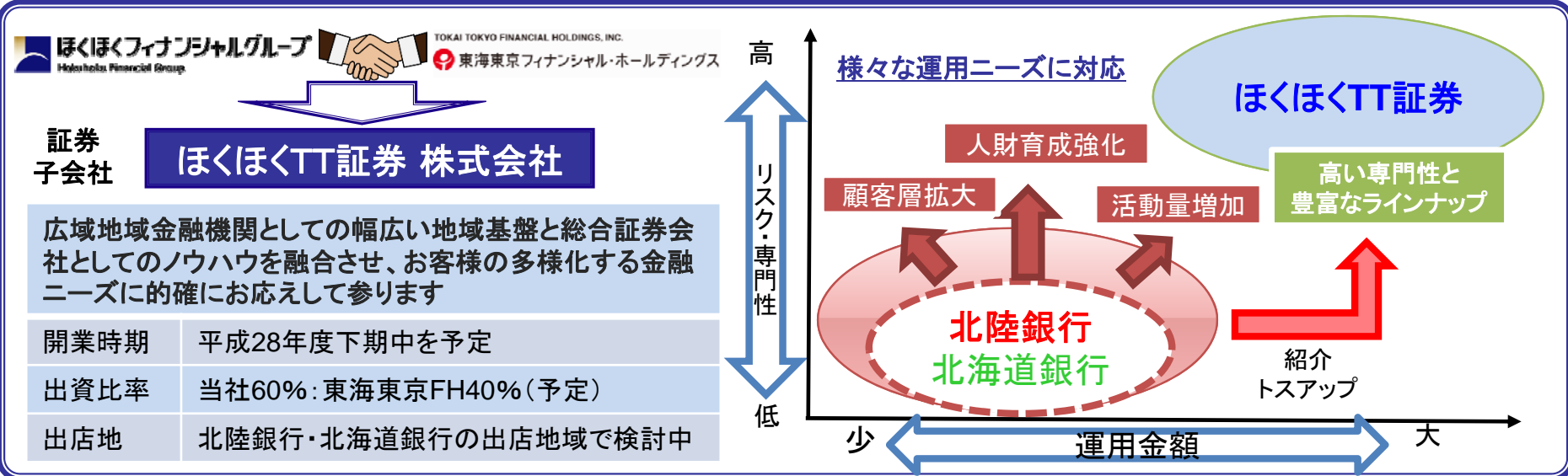
投資信託・保険 販売額・収益



- コア・サテライト販売戦略 (コア・ファンド積上げ)
- NISA、ジュニアNISA提案
- 各種運用セミナー・講演会の開催による情報提供
- ライフステージに応じた、資産運用商品・資産継承商品の提案



「ほくほくTT証券」設立による銀証連携



「事業性評価」に基づくソリューションの提供



お客様との接点強化



北陸銀行

取引先別に「応援テーマ」を選定し、お客様の目線にたった営業活動を展開



北海道銀行

全行を挙げて、全力で取り組む先を選定し、本部・支店、役職員一体となった集中営業を展開

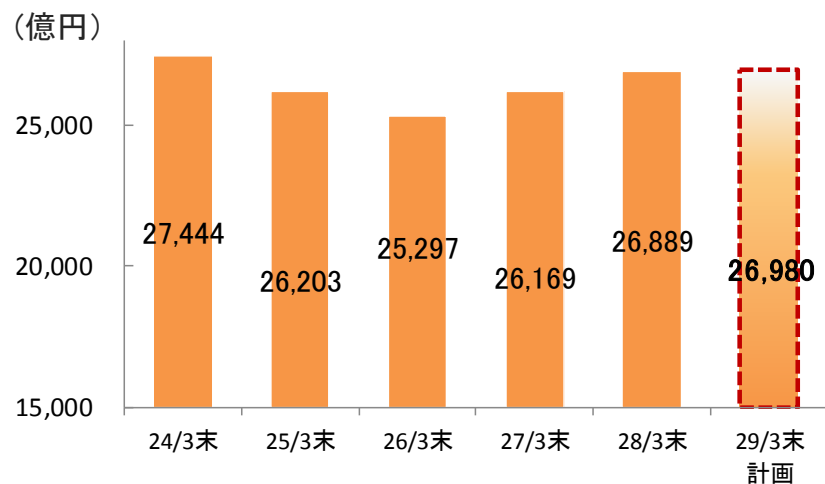
ソリューション

提案型金融サービス	創業支援融資、事業承継・M&A、確定拠出年金、ビジネスマッチング
ファイナンス	メゾンファイナンス・プロジェクトファイナンス、PFI・PPP、私募債（エコ私募債）、環境評価融資
調達・決裁手段	債権流動化・EB関連商品・でんさい
海外支援	進出支援セミナー、外為IB機能の拡充、親子ローン・クロスボーダーローン

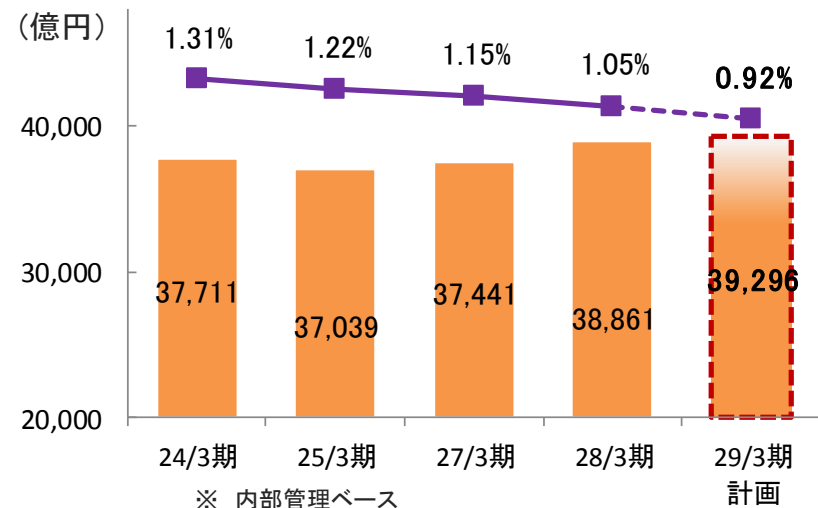
重点マーケット

農業	医療・福祉	観光
アグリファント、6次産業化マッチング	専用融資商品導入、支援体制強化	宿泊・旅客運送業への設備資金支援

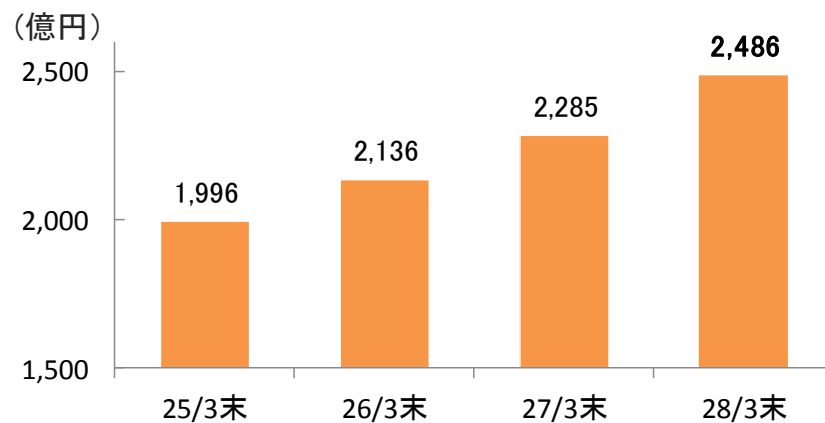
中小企業向け貸出残高



事業性貸出平均残高・利回り

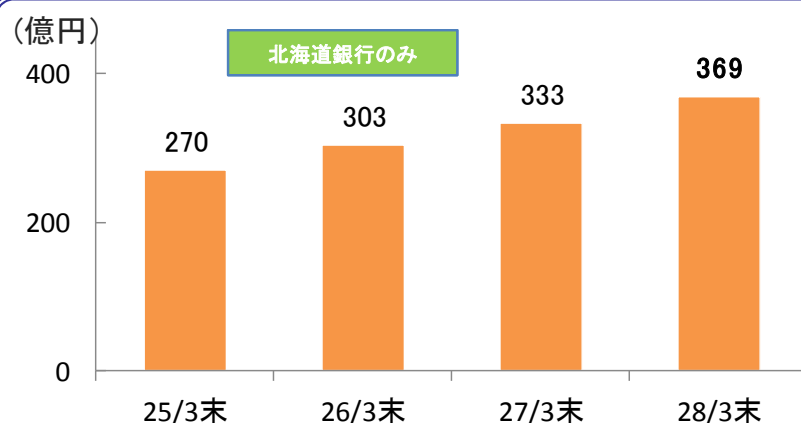


医療・福祉向け貸出



- 「地域ヘルスケア産業支援ファンド」と協力し、医療・介護事業者への支援を拡大

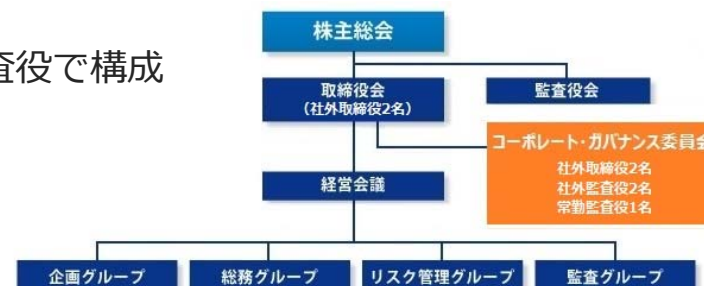
農業・食向け貸出



- 農業者・食関連企業双方の事業拡大・新規事業創出を促進する『6次産業化』の工作を展開

コーポレートガバナンスの強化

- 社外取締役 1 名 → **2 名へ増員** (27年6月)
取締役・監査役 1 2 名のうち独立社外役員 4 名: **3 分の 1 が独立社外役員**
- 「**コーポレートガバナンス・ガイドライン**」制定 (27年10月)
当社のコーポレートガバナンスの基本的な考え方、取締役会・監査役会の役割等を明記
- 「**コーポレート・ガバナンス委員会**」
構成: **社外取締役 (2 名)**、**社外監査役 (2 名)**、常勤監査役で構成
機能: ・社外役員間の情報交換 ・代取との意見交換
 - ・取締役の人事・報酬等の特に重要な事項に関する助言
 - ・当社および業界に関する必要な知識の習得



効率化・コスト削減

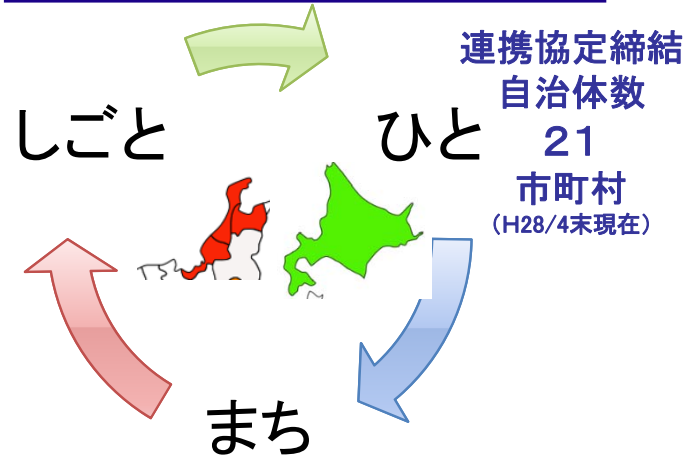
- **組織体制強化**
両行に「業務改革企画室」を設置(28年4月)
組織横断的な業務効率化への取り組み強化
- **シナジー効果の加速**
事務統一化、サブシステム・後方事務の共同化の継続
- **基幹システム(MEJAR)の共同利用増加**
七十七銀行(28年1月)、東日本銀行(28年度より準備を開始し30年度に予定) → 横浜銀行を含めた5行共同開発によるシステム費用低下

人財育成

- **お客様へのコンサルティング力・提案力の向上**
研修制度の充実、知識・レベルの見える化による段階的なレベルアップ
- **管理職者・候補者の育成強化**
人員構成を踏まえ将来に管理職となる人材の育成強化、マネジメント力・指導力の研修実施
- **女性活躍**
柔軟な働き方によるキャリア形成支援、管理職への積極登用

「地方創生」に向けた取組み

地方自治体との連携



	テーマ	支援メニュー
まち	移住・定住	JTI制度の活用、移住・定住・空家対策ローン
	公共施設マネジメント	PPP/PFI導入支援・コンサルティング
ひと	創業・ベンチャー支援	地域創生ファンド・創業支援セミナー
	ビジネスマッチング	メーカーマッチングシステム「Linkers」の活用
	人材マッチング	各人材会社との連携
しごと	企業誘致	自治体共催ビジネスセミナー
	販路拡大	食関連商談会、物産展共催
	海外ビジネス	海外ネットワークの活用、商談会開催

地域貢献活動

小学生銀行体験



ギャラリー・ミレー(美術館)



どうぎんカーリングチーム



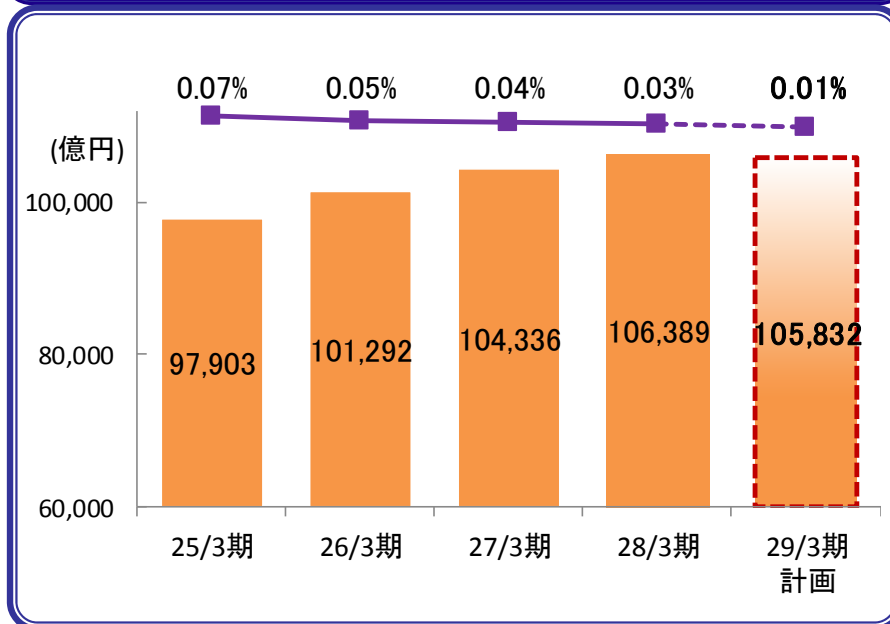
植樹活動



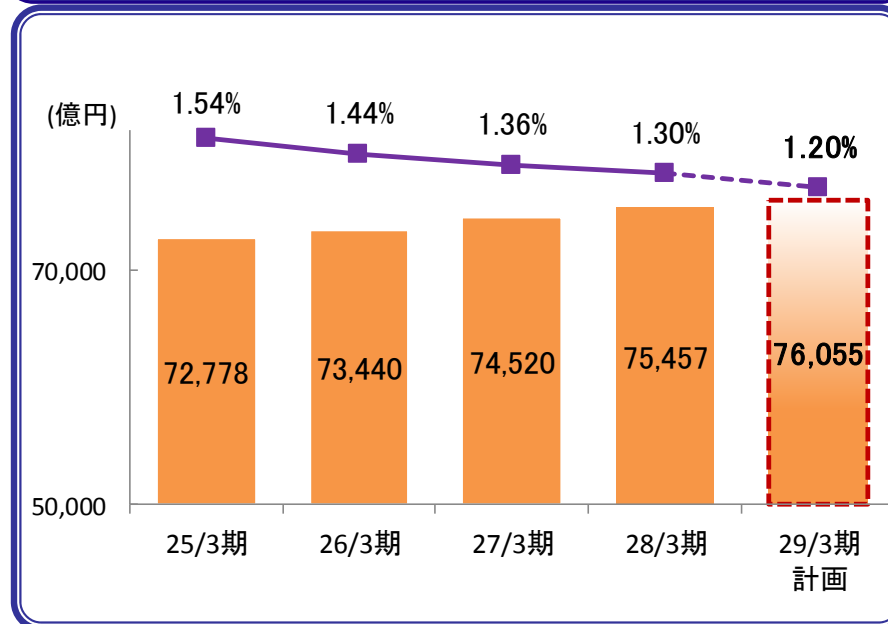
よさこいソーラン祭り



預金 平均残高・利回り



貸出金 平均残高・利回り



ボリューム(平均残高)

(億円)

【2行合算】	28/3期 実績	29/3期 計画	増減額
貸出金	75,457	76,055	597
有価証券	23,806	25,570	1,763
預金・NCD	106,389	105,832	△ 556

資金利回り

【2行合算】

	28/3期 実績	29/3期 計画	増減額
貸出金	1.30%	1.20%	△0.10%
有価証券	1.13%	1.16%	0.03%
預金・NCD	0.03%	0.01%	△0.02%

業績予想・配当予想

平成29年3月期 通期業績予想 (FG連結)

(億円)

	中間期予想	通期予想	増減額
経常収益	900	1,800	△ 125
経常利益	190	350	△ 114
親会社株主に帰属する 当期純利益	120	230	△ 58

平成29年3月期 配当予想

	中間配当	期末配当	年間予想
普通株式	—	4円25銭	4円25銭
第5種優先株式	7円50銭	7円50銭	15円00銭

- 平成28年10月1日を効力発効日として「普通株式10株を1株とする株式併合」を予定しており、株式併合が行われた場合の平成29年3月期配当金(予定)は、42円50銭となります。

平成29年3月期 通期業績予想 (北陸銀行・北海道銀行)

	【2行合算】			【北陸銀行単体】			【北海道銀行単体】		
	中間期予想	通期予想	増減額	中間期予想	通期予想	増減額	中間期予想	通期予想	増減額
経常収益	830	1,645	△ 144	445	880	△ 53	385	765	△ 90
コア業務粗利益	695	1,360	△ 70	370	720	△ 33	325	640	△ 36
経費(△)	460	920	10	245	490	3	215	430	7
コア業務純益	235	440	△ 80	125	230	△ 36	110	210	△ 43
与信費用(△)	30	60	22	15	30	41	15	30	△ 18
経常利益	195	355	△ 112	110	200	△ 67	85	155	△ 45
当期純利益	135	240	△ 59	75	135	△ 30	60	105	△ 29

本件に係る照会先

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ
企画グループ(担当:宮崎)

TEL:076-423-7331

FAX:076-423-9545

E-MAIL:honsa1@hokuhoku-fg.co.jp

<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

事前に株式会社ほくほくフィナンシャルグループの許可を書面で得ることなく本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。